

幼稚園の教育目標

心情豊かな優しい子ども	自分で考え行動できる子ども	元気に活動するたくましい子ども
-------------	---------------	-----------------

1、本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- | |
|---|
| ① 教員の資質向上のための工夫。(研修への積極的な参加。研究を深める。) |
| ② 当園の教育など、外部へのアピールの工夫。(HP等の活用。インスタグラム開始。) |
| ③ 保護者との連携の工夫。 |
| ④ 地域との関わりの工夫。(小学校・中学校・高校との関わりなど) |

2、評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	結果	理由	学校関係者評価
1	保育の計画性	A	今年度もコロナ禍ということもあり、保育内容を工夫して計画した。今までの保育を見直すきっかけにしながら、職員が協力して、子どもたちのより良い育ちのための保育を考えることができていた。	A
2	保育のあり方 幼児への対応	B	臨床心理士の力を借りながら、一人ひとりの子どもの傾向や特徴をつかみ、職員間で情報を共有し、職員皆で対応した。チームワークを大切にしながら、職員一人ひとりの子どもを見る目を育てていきたい。	B
3	教師としての資質、能力、 良識、適正	B	日々の保育や行事について、職員が意見を出し合う時間を大切にした。この機会が、職員の個々の資質向上につながるよう、個々が努力する姿が見られた。	B
4	保護者への対応	B	コロナ禍で保護者の方とコミュニケーションがとりにくい中、メールやアプリ、面談での機会を大切にした。	B
5	地域の自然や社会との かかわり	B	今年度も、学校との交流ができていない中、小学校との情報共有の機会を大切にした。春休みには、聖星高校の保育体験や部活とのコラボレーション企画が子どもたちにも喜ばれた。	B
6	研修と研究	A	問題解決能力とコミュニケーション能力を育てる、をねらいとし、ごっこ遊びの研究を深めた。今年度は、自治会、小中学校、聖星高校、他園にも声を掛け、海の星幼稚園の教育を参観していただき、ご意見をいただいた。	A
7	外部アンケート	A	子育てを考える会やごっこ遊び参観が評価された。保護者の方にはおうちえんを利用した動画等の配信も関心が高かった。	A

* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が十分に出ない D 取り組みが不十分

4、本年度の重点課題の総合的な評価結果

- ・今年度も、子どもたちの育ちを考えた保育の充実を心掛け一年を過ごした。
- ・子育てを考える会や外部講師を招いての子育て講演会は、保護者の方からもまたの機会を期待する声が多くあった。保護者の方と共に、子どもたちの育ちを考えるきっかけ作りとなった。
- ・未就園児親子の幼稚園開放日も予約制にするなどの工夫をした。コロナ禍のためか、参加者は例年より少なめであった。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
地域（自然）との関わり	<ul style="list-style-type: none">・幼小連携と地域の中学や高校、学院とのつながりを持ちにくい状況ではあるが実施できるよう工夫していきたい。・つばみっこの工夫と休止していたこひつじサークルの再開など、地域の子育て支援の拠点として、子育て支援に力を入れていきたい。・聖星高校との長期休業中を利用しての保育体験や部活とのコラボレーション企画を来年度も充実させていきたい。
教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none">・処遇改善Ⅱについても職員にそのねらいをきちんと伝え、個々に自主的に質の向上を目指せるようにしていきたい。来年度から、自己評価表を利用して個々の目標をさらに明確にできるようにしていきたい。・チームワークよく仕事ができるよう主幹教諭や統括リーダー中心に、職場の良い雰囲気作り心掛けていく。職員間の情報共有も大切にしていく。・園内研修についても、研修リーダー中心に皆が自主的に研修を進められるようにしていく。
保護者との関り	<ul style="list-style-type: none">・保護者のご意見にも丁寧に対応しながら、園の方向性等、理解していただけるよう、おうちえんの活用やクラスだより等の内容の工夫をしていく。・今後もおうちえんなどを活用し、園の様子をリアルタイムに伝えていく。

6、学校関係者評価委員からのコメント

- ・今年度もコロナ禍ということで、PTA 主催の海の星フェスタは縮小した形で行った。そのような中でも、子どもたちのために、幼稚園も感染症対策と保育の工夫をして子どもたちのために考えて様々な経験ができるようにしてきていた。おうちえんの動画などの配信も今の時代に合っていると感じる。
今後も、心の教育の中で子どもたちを育ててほしい。